博士学位論文審査結果の概要

ふりがな 氏　名	なかみち　じゅんこ 中道　淳子
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	博第 4 号
学位授与年月日	平成 22 年 3 月 13 日(学位授与式の日)
学位論文題目	地域における認知症予防ボランティアによる介護予防活動の有効性に関する研究　―老人福祉センターにおける実践活動から―
審査委員	主査　石川県立看護大学　教授　吉田和枝 副査　石川県立看護大学　准教授　小林宏光 副査　石川県立看護大学　教授　佐々木順子

審査結果の概要

審査および最終試験を平成 22 年 1 月 12 日に行った。以下に、本研究の概要と最終試験の結果を示す。

本論文には、高齢者の認知機能低下という地域の健康課題に対して、実践的な予防活動の経緯と変化が述べられている。内容は、地域の 80 歳以上の後期高齢者に対して、60 歳代前半を含む前期高齢者からなる認知症予防ボランティアグループが実践的な認知症予防活動を行った結果、ボランティア活動の対象となった高齢者の認知症予防の効果が認められたことを量的調査によって明らかしている。さらに、ボランティアを行った側の前期高齢者の活動についても、5 ヶ月間の活動過程の記録を質的調査により記述・分析しており、結果的にボランティア側にとっても認知症予防ボランティア活動が有効であることを示唆している。

高齢者の増加が著しいわが国では、認知症予防は大きな課題であり、この課題に対して専門職ではなく、ボランティアの活動に着目した点は本論文の最大の特徴であり、かつ看護学に適した実践的テーマである。また、10 回の活動の経緯に関して、ボランティア活動の受け手に関しては、全活動を通じた前後の統計による量的調査のみであるが、質的調査により各回の活動毎のボランティア活動の提供者が捉えた受け手の変化とボランティアを行う前期高齢者自身の変化が記述されていることは大変貴重である。

今回の調査においては、60 歳代前半を含む前期高齢者ボランティアに対して客観的なスケール等を使用していないが、後期高齢者の認知症予防をボランティアとして行うことで、前期高齢者自身の認知症予防につながることが示唆されており、今後、客観的データも収集していくという次に向けての課題も掲げている。 前期高齢者はボランティア活動を行っている最も多い年齢層であるが、また認知症予備軍でもある。これらのボランティアグループの住民組織が主体となって行う認知症予防および地域活動の仕組みづくりに、本研究が示した結果は有用なものである。

本論文および本研究の方向性は、看護学の発展に大きく寄与できると考えられる。

以上の結果、本論文は博士（看護学）を授与することに値するものであり、論文審査ならびに最終試験に合格と判断した。